

バンクネガラインドネシア (BBNI)

金利収入、非金利収益ともに伸びる、2018/12 通期は15-17%の増益を目指す

インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG BBNI:IJ | REUTERS BBNI:JK

- 2017/12 通期は、総収益が前年同期比 9.5%増の 45 兆 2,120 億 IDR、純利益は同 20.1%増の 13 兆 6,160 億 IDR となった。
- 貸出残高は前期比 12.2%増。銀行業界全体の純金利マージン (NIM) が低下する中、業界平均の 5.3%を上回る 5.5%を維持。口座管理料やクレジットカード、国際事務手数料なども好調であった。
- 2018/12 通期会社計画は、貸出残高が前期比 13-16%増、非金利収益が同 14-15%増、当期利益が 15-17%増。16-17%の ROE を目指す。

What is the news?

2017/12 通期は、総収益が前期比 9.5%増の 45 兆 2,120 億 IDR、純利益は同 20.1%増の 13 兆 6,160 億 IDR となった。インドネシアの銀行業界全体の純金利マージン (NIM) が前期の 5.6%から 5.3%に低下する中、同社は業界平均を上回る 5.5%を維持。貸出残高の増加に伴い金利収益が伸びた。また非金利収益も、全体の 90%を占める主要業務からの継続手数料が堅調に推移したことにより増加した。営業費用は同 8.6%増の 20 兆 2,863 億 IDR と増加したものの、経費率は 43.9%と前期の 44.0%と若干改善であった。ROE は 15.6%前期の 15.5%から若干改善した。

金利収益では、貸出利鞘である正味受取利息が同 6.5%増の 31 兆 9,380 億 IDR と堅調であった。非金利収益では、受入手数が同 13.9%増の 9 兆 7,750 億 IDR であった。口座管理料やクレジットカード、国際事務手数料などが好調であった。保険料収入は同 31.7%増の 1 兆 7,680 億 IDR。貸倒引当金の戻入益が同 25.7%増の 1 兆 7,320 億 IDR となった。2017/12 末の貸出残高は前期比 12.2%増の 441 兆 3,140 億 IDR である。企業向けの貸出残高が同 12.4%増の 345 兆 4,990 億 IDR と全体の伸びを牽引。貸出残高全体の 78%を占めた。製造業、建設業、ビジネス・サービス業などを中心に非上場企業・中堅企業向けが伸びたことや、大企業・政府機関の建設・高速道路事業向けプロジェクト融資が引き続き好調に増加したことなどが寄与した。個人向けの貸出残高は同 9.8%増の 71 兆 4,450 億 IDR となった。自動車ローン残高は減少したものの、主にペイディローン残高の伸びが牽引した。第三者融資残高は同 18.5%増の 516 兆 980 億 IDR となった。2017/12 末の不良債権比率 (NPL レシオ) は 2.3%と前期の 3.0%から改善。効果的な信用リスク管理と、優良取引先への選択的な追加融資の推進などにより、資産の安全性が高まった。

How do we view this?

2018/12 通期の会社計画は、貸出残高が前期比 13-16%増、第三者融資が同 13-15%増、非金利収益が同 14-15%増、当期利益が 15-17%増、不良債権比率 (NPL レシオ) が 2.3-2.4%、純金利マージン (NIM) が 5.4-5.5%増、ROE が 16-17%である。2018/12 通期の市場予想は当期利益が同 15.4%増の 15 兆 7,160 億 IDR である。

業績推移

※参考レート1IDR=0.00767円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
純利益(十億IDR)	9,066	11,338	13,616	15,716	17,877
EPS(IDR)	487.00	610.00	730.16	844.52	958.21
PER(倍)	18.79	15.00	12.53	10.83	9.55
BPS(IDR)	4,130.85	4,673.65	5,286.83	5,760.42	6,400.72
PBR(倍)	2.22	1.96	1.73	1.59	1.43
配当(IDR)	122.53	212.81	-	249.62	307.80
配当利回り(%)	1.34	2.33	-	2.73	3.36

(出所:会社公表資料やBloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (IDR)	249.62	(予想はBloomberg)
終値 (IDR)	9,150	2018/3/26

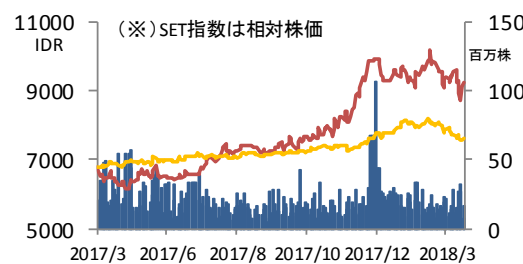
会社概要

1946年に設立した国有商業銀行。インドネシア政府によってインドネシア最初の銀行として設立され、当初は中央銀行と商業銀行の両方の機能を持ち、インドネシア初の紙幣の発行に携わった。1949年に蘭系ジャワ銀行に中央銀行業務を引き継いだ後、開発銀行および外国為替銀行の役割を担った。1955年の資本増強に伴い、国有商業銀行となった。1996年には国有銀行として初めてジャカルタ証券取引所に株式を上場した。

個人・法人向け商業銀行、国際金融、ウェルス・マネジメント、インターネットバンキング、テレフォンバンキング、モバイルバンキング等を提供している。特に、石油・ガス・鉱業、エンジニアリング、建設、通信、電力、化学、小売り・卸売、農業・食品の成長ポテンシャルの高いインドネシアの主要8産業にフォーカスし、成長のサポートを行っている。また、インドネシア経済の牽引役でもある中小企業への支援も行い、貸出を増やしている。また、個人顧客向けにはニーズに合わせ、ローン、デビットカード、クレジットカード、退職年金、パンカシュアランスなどサービス提供を行う。現在約1,000以上の国内支店と5つの海外支店を有し、インドネシア国内にATM網を備えている。

企業データ(2018/3/27)

ベータ値	1.27
時価総額(十億IDR)	171,101
企業価値=EV(十億IDR)	-
3ヵ月平均売買代金(十億IDR)	201



(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

主要株主(2018/3)

1. Republic of Indonesia	58.84
2. BlackRock	3.14
3. Vanguard Group	2.04

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

増淵 透吾

 togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

庵原 浩樹

 hiroki.ihara@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

バンクネガラインドネシア(BBNI)

2018年3月27日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。